

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 北九州市立赤崎小学校  
種 別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫教育  
 中学校     中高一貫教育     高等学校  
 教員養成     技術/職業教育  
 特別支援学校     その他 (                      )  
所在地 〒808-0004  
北九州市若松区西小石町8番1号  
E-mail [akasaki-e@kita9.ed.jp](mailto:akasaki-e@kita9.ed.jp)  
Website <http://www.kita9.ed.jp/akasaki-e/>  
児童生徒数 男子 101名    女子 80名    合計 181名  
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (                      )

### 3. 活動内容

## 未来につなげよう！ふるさと赤崎！

本校は平成15年度より、総合的な学習の時間の在り方について、子どもの活動の場を地域に求め、地域の人・こと・ものを環境・エネルギーからの視点で取り上げて、継続的にまた繰り返し体験活動を行い、地域で生きる人の生き方（願いや思い、行動）に触れ、自分のあり方を考える学習を積み重ねてきた。

年度ごとにカリキュラムを見直し、私たちの町「赤崎」のよさを地域に伝え、次世代につなげていく児童の育成に力を注いでいる。本年度のカリキュラムは以下の通りである。

総合的な学習の時間 赤崎プラン（学校カリキュラム）	
○ 地域の人や社会、自然に繰り返しかわる意識の連続・発展を目指した学習 ○ 地域の人・もの・ことに深くかわる探究的・協同的な学習	
単元名	
3年	<b>「小石ちょうちん山笠をもりあげよう」</b> <b>【郷土・環境】</b> 自分たちの願いを込めた山笠を作製し、地域の伝統行事「小石ちょうちん山笠」に参加することで、地域への愛着と誇りに思う心を育む。 GT：保存会の方々 <b>【他教科との関連】</b> 社会「まちに伝わる祭りや行事」 道徳「心の花たば」（中4-5）郷土愛
	<b>「生き生きおじいちゃん・おばあちゃん」</b> <b>【福祉・健康】</b> 地域に住む年長者を訪問する活動を通して、年長者の趣味や健康について知り、生きがいや楽しく生きることの大切さに気付かせ、自分の健康などについて考えることができる。 GT：地域のお年寄りの方々 <b>【他教科との関連】</b> 国語「すじ道を立てて話そう」 道徳「おじいさんとぼく」（中4-3）家族愛
4年	<b>「リサイクルセンター赤崎～あそかんリサイクルを広めよう～」</b> <b>【環境】</b> 児童の生活に身近な空き缶のリサイクル活動を体験し、リサイクルの大切さを理解する。 GT：カーズ・環境ミュージアムの方々 <b>【他教科との関連】</b> 社会「ごみはどこへ」
	<b>「赤崎心丸い大作戦～地域の高齢者の方と親しくなろう～」</b> <b>【福祉】</b> 地域に住む独り暮らしの高齢者との交流を通して、高齢者の思いや願いの理解を深め、地域の一員として自分たちにできることを考える。 GT：地域のお年寄りの方々、ボランティアの方々 <b>【他教科との関連】</b> 国語「新聞のとくちょうと作り方を知ろう」 道徳「かっぱの里 筑前若松」（中4-5）郷土愛
5年	<b>「わたしたちの町に森を作ろう」</b> <b>【環境】</b> 産業廃棄物の処理について関心を高め、エコタウンの意義を知り、資源循環型社会の実現とエコ生活について考える。また、森林の働きを理解し、緑の回廊作りに参加する。 GT：森の専門家・環境局の方々 <b>【他教科との関連】</b> 社会「森林と生きる」「くらしを支える情報」 道徳「世界の文化遺産」（高4-7）郷土愛・愛国心
	<b>「いのちをみつめて」</b> <b>【福祉・健康】</b> 乳児保育所を訪ね、ミニ保育士体験をすることで、生命の大切さや自分の生き方を考える。 GT：深町どんぐりのもり保育所子ども、職員 <b>【他教科との関連】</b> 理科「人のたんじょう」 体育（保健）「病気の予防」（心の健康） 道徳「家族の紹介」
6年	<b>「エネルギーと環境～赤崎」</b> <b>【環境】</b> 校区にある風力発電や若松電源開発について調べ、CO <sub>2</sub> の発生をおさえた新エネルギーの大切さに気付かせ、地球環境について考え、自分たちにできることを実行する。 GT：電源開発の方々 <b>【他教科との関連】</b> 理科「電気の性質とはたらき」 家庭「くふうしよう 朝の生活」
	<b>「高齢者とともに生きる」</b> <b>【福祉・健康】</b> けやきの杜の方との交流を基に、高齢者福祉や老人介護について調べ、年長者とともに生きる社会の実現について考える。 GT：けやきの杜の入居者、職員 <b>【他教科との関連】</b> 社会「暮らしの中の政治」 道徳「言葉の力、わたしの思い」（高2-2）思いやり・親切

地域を知ることを通して、地域を大切にすることを養い、持続可能な地域社会の担い手の育成に取り組んでいる。

本年度の各学年の取り組み

各学年、環境（郷土）分野の1実践を紹介する。

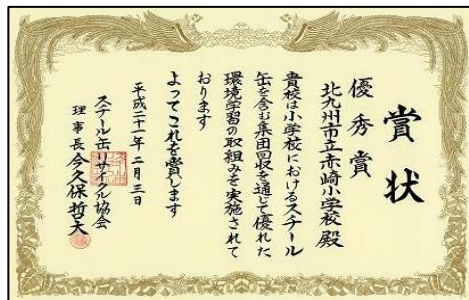
**3年生 「小石ちょうちん山笠をもちあげよう」**

学習したことや体験を通して、地域を大切にし伝統を守りたいという思いを込めて山笠を作成した。祭り当日は自分たちで作った山笠をかつぎ、地域の方々と一緒になって祭りを盛り上げていった。単元終了後の児童の感想には、「地域の人となかよくなってよかったです。」「地域の人といっしょにお祭りをして赤崎・小石のよいところを見つけました。」という内容が多かった。この言葉には、児童が主体的に活動し、自信と地域を愛する心が育った姿が見受けられる。



**4年生 「リサイクルセンター赤崎～あきかんリサイクルを広めよう～」**

本校では、毎年4年生が空き缶リサイクルに取り組んでいる。そのため、1学期の社会科「健康なくらしとまちづくり」の学習を行った際、子どもたちから「今年も空き缶リサイクルをするんですか。」という声があがった。そこで、本校が平成15年から空き缶リサイクルに取り組んでいること（資料1）や、平成21



【資料1(左)】 【資料2(右)】

年度には、空き缶リサイクルが北九州で一番多かったこと賞状等を用いてを紹介した（資料2）。しかし今現在は、以前のように空き缶リサイクルが活発に行われておらず、学校内にある空き缶回収場にある空き缶のほとんどが、地域の方が持ち込んでくださったものであることを伝えた。以前のように空き缶リサイクルを盛んにするにはどうすればよいか問いかけると、「自分たちが空き缶を持って来れば良い。」「他の学年の人にも空き缶を持って来てもらえるように呼びかければよい。」「そうすれば、前のように赤崎小学校が空き缶リサイクルで1位になれる。」などの意見が出された。



【資料3】  
あきかんを持ってきてくれた児童を放送している4年生

そこで、学習問題「あきかんリサイクルを全校に広めよう。」を設定して活動を始めた。このように、「毎年しているから今年もする。」ではなく、子どもたちの意欲を高めるような事象を提示する



【資料4】あきかんの回収を行う4年生

ことで、子どもたちは全校児童に呼びかける方法を意欲的に考えていた。それらの方法は「放送（資料3）、ポスター、手紙、スタンプカード、景品作り」と昨年度までとあまり変わりはないが、準備を進める際、友達と協力してよりよいものを作ろうと張り切っていた。現在、毎週火曜日と金曜日の朝、当番を決めて集中下足センターで空き缶回収を行っている（資料4）。3月の終わりまで継続して活動を行う予定である。

### 5年生 「わたしたちのまちに森をつくろう」

本単元は「エコタウンについて調べる」「わたしたちのまちに森をつくろう」の二部構成で学習を進めた。



初めに、エコタウンを緑の森にしようという計画があるという事実に出合わせるため、環境局の方に来校して話をし



みなさんと一緒にどんぐりの苗木作りができてよかったです。これから1年と4か月お世話をよろしくお願いします。そして、1年4か月後、植樹会で一緒に苗木を植えて、わたしたちの町赤崎に森を作りましょう。（一部抜粋）

いた。児童は、「緑の回廊構想」計画に賛同し、どんぐり集めをしたいと意欲的にどんぐり拾いの体験活動を行った。児童の熱心な活動

の結果、たくさんのどんぐりを集めることができた。環境局の方が、どんぐりが入ったバケツを提示し、「エコタウンを緑の森にするためには、こんなにたくさんのどんぐりが必要です。」と言われたので、どうすればよいか考え「専門の方に呼びかけ、どんぐりの苗づくりを手伝ってもらいたい。」という思いをもつようになった。「手伝ってもらうためには、森を作ったらどんなよいことがあるか分かったら、手伝いたいと思うようになるよね。」という教師の提案を基に、学習問題「森のよさや大切さを知らせ合い、森づくりに協力しよう。」を設定した。

児童が集めたどんぐりで、環境局の方と苗木作りを行った。苗木作りが終わった後、上記のような話を環境局の方にしていただいた。児童は熱心に話を聞き、苗木の世話に意欲的に取り組もうとする姿勢やこれからの赤崎の町をどのように変えたいかという思いが学習後の感想文（資料5）からもうかがえた。そして、卒業後、3月末に毎年緑の回廊植樹地に児童が育てたどんぐりの苗木を地域の方や企業の方と、渡り鳥を誘導する緑の回廊になることを願って植樹することになっている。

【資料5】 苗木作り後のM児のワークシートへの記述内容  
 ○ 今日保存していたどんぐりを使って苗木作りを行いました。ぼくたちの先ばいの木のように大きくなってほしいので、お世話をしっかりしようと思いました。そして、ぼくたちの町が緑がいっぱいで、渡り鳥が来る町になってほしいです。今からそのことを考えるとワクワクします。

### 6年生 「エネルギーと環境 ～ 赤崎から伝えます！ 私たちにできることを～」

本単元は、第一部「現在の日本の発電の様子」、第二部「電気エネルギーを有効に使うために、自分たちにできること」の二部構成で学習を進めた。

第一部では、電源開発会社の方との連携により、現在の日本の発電の様子や問題点を調べてきた。第一部の最後に電源開発会社の方に「現在、自然のことを考え、自然エネルギーへの変換に努めているが現実的に難しい。だからみんなによい節電方法を考えてほしい。」と話をしていただき、第二部へつないでいった。

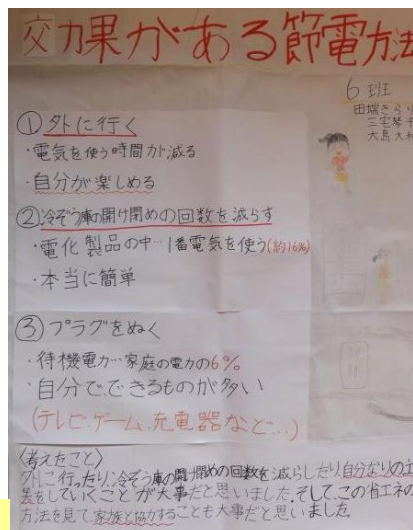
第二部では、節電に効果がある方法を調べたり、グループで整理・分析をしたりして、グループごとに模造紙にまとめ(資料6)、学級全体で交流し合った。資料7は、学習後の児童の感想である。

【資料7】学習後の児童の感想

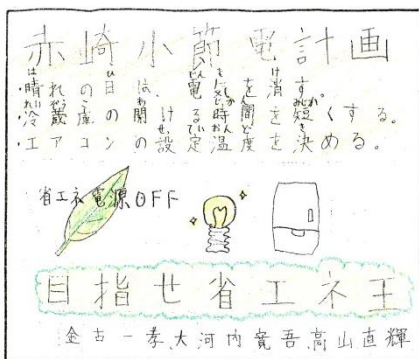
これからは、一人一人が「節電」や「省エネ」を心がけて、電気の使い方を考えていかないといけないと思う。そして、私たちが家族に節電方法を教えて実行することが大事だと思う。

このように、児童が節電の大切さを実感することができたのは、単元構成を工夫し、児童の思考の流れに沿い、協同的な探究が続きやすい単元構成になるように工夫した結果だと考えられる。

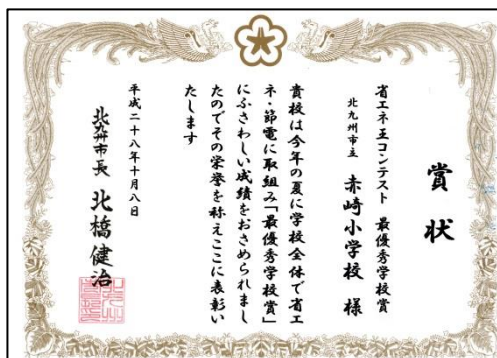
【資料6】節電方法を模造紙にまとめたもの



本校では、6年生が電気エネルギーや節電について総合的な学習の時間を中心に学習していることと、昨年度の6年生が節電について全校に呼びかけた(資料7)ことから、夏休みに北九州市教育委員会が主催する



【資料7】節電をよびかけるために、全校児童に配布したステッカー



【資料8】省エネ王学校賞の賞状

「省エネ王コンテスト」に応募した。本年度は、「最優秀学校賞」を受賞した(資料8)。このように、学習したことを家庭でも実践しようとする態度が育ちつつあると考えられる。今後も、学習したことが生かせるように、呼びかけていきたいと考える。

【資料8】省エネ王学校賞の賞状

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）